

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和元年度第1回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和元年6月7日(金) 9時30分～11時30分
開催場所	高松市防災合同庁舎(危機管理センター) 5階501会議室
議 題	(1) 高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 審査 (2) 平成30年度事業報告・決算 (3) 令和元年度事業計画・予算 (4) その他
公開の区分	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	高松市情報公開条例(第7条)に該当
出席委員	5人 本多委員、谷委員、穴吹委員、井藤委員、英委員
傍聴者	0人 (定員 5人)
担当課および連絡先	産業振興課創造産業係 839-2411

### 審議経過および審議結果

(事務局)

高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項により、会議成立の報告。

情報公開条例第7条に該当するため、議題(1)高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査について、非公開とすることを決定。

議題(1)高松市伝統的ものづくり振興事業補助金審査を非公開にて実施。

～事務局より議題(2)平成30年度事業報告・決算について説明～

(委員)

伝統的ものづくり学校巡回教室638,000円と伝統的ものづくり夏休み親子体験教室84,000円の差が大きい、内訳は何か。

(事務局)

夏休み親子体験教室は、講師1名あたり14,000円、合計6名に対する謝金である。学校巡回教室は、庵治石・盆栽・香川漆器の3分野の事業者を支払う委託料であり、講師への謝金、体験の準備費や材料費が入っている。内訳は各分野によって異なるが、夏休み親子体験教室よりも、講師・参加する生徒の数が多し事等が違いである。

(委員)

漆芸研究所の終了作品の貸出事業は、募集をかけて応募した企業に貸し出したのか。応接室のみではなく、多くの人目に触れる所を狙って貸出するのもよいのではないか。

## 審議経過および審議結果

(事務局)

1か月程度の募集期間を設け、香川県漆芸研究所のホームページ等で広く募集をし、応募のあった貸出希望先に対して作品数を調整の上、貸出をしている。

(委員)

香川県漆芸魅力発信戦略事業について、富裕層に対してどの位売れたか、アートフェアで香川漆器の認知度がどれ位あるのか、ということ、今後検証すべきである。

(委員)

学校巡回教室に関して、参加した小学生の感想や意見はどうか。

(事務局)

実施した小学校の先生を通じてアンケートを取ったところ、満足いただいたとの回答となっている。平成30年度から内容を変えての実施だったので、当初心配もしたが、休み時間にも講師の先生に質問する等、子どもたちはとても興味津々に参加してくれていた。

～事務局より議題（3）令和元年度事業計画・予算について説明～

(委員)

台湾と香川の漆芸術文化交流事業について、令和元年度も交流を中心に行うとの事だが、意義をお聞きしたい

(事務局)

台湾で最初の漆の工芸学校を開き、「台湾漆器の生みの親」と呼ばれる香川県出身の山中公没後70年を記念して、平成30年度は、香川で「台湾・香川 漆芸交流展」を開催した。令和元年度は、台湾において、シンポジウムやワークショップ、作家同士の交流に主眼をおいた交流事業を実施予定であり、お互いの文化交流を図るものである。

(委員)

展示会等見本市等出展補助について、補助金額の妥当性、商談率等の効果をきちんと検証すべきである。

(事務局)

各種組合が販路拡大や周知を目的として開催するフェアの経費の一部を一定額補助するもので、決算報告書や事業報告書等で収支や内容について精査し、補助金が適切に執行されている旨を確認している。効果検証については、今後どのような報告の仕方が出来るか検討したい。

(委員)

たかまつ工芸ウィークについて伺いたい。

(事務局)

工芸に特化した週間を設け、高松を工芸の発信地として広く内外にアピールすることを目的とし、昨年は「高松市創造都市推進懇談会」（U40）の発案により実施された事業について、今年は昨年の課題等も踏まえて、本市や工芸品の販売店、組合等で実行員会を立ち上げ、協議しながら進めている。

(委員)

今年は瀬戸内国際芸術祭の開催年度でもあることから広くPRするべきである。

議題（４）その他

(事務局)

農林水産課の盆栽事業について説明。

(オブザーバー)

オブザーバーの皆様より御意見等をいただく。